

# タイムエイドを使ってみよう！

～「タイムログ 20-1」活用事例～

時計の時刻は読めても、時間の感覚が分からず5分間待つってどのくらい待てばよいのだろう……。戸惑うお子さんも多いはず。この活動がいつまで続くのだろう……。時計、時刻、時間の理解が苦手なお子さんにとっては、毎日何を手掛かりに活動すればいいのでしょうか。そこで見通しがもてる工夫をしてみました。

## 始まりと終わり





入学したばかりの小学部1年生の児童は学校がどんな流れで動いているのかわかりません。そこでクラスのルールを決めました。授業が始まる時に「鐘」を鳴らします。それが休み時間の終了でもあります。学習の始めに黒板にはってあるシンボルのカードを指さしながら「〇〇の勉強、座って静かに頑張ります」と必ず確認します。授業が終了するとおしまいマークを見せ、「休み時間！」と手を叩きながら告げます。これで学習時間と休み時間の違いが分かり、スムーズに行動を切り替えて活動することができるようになりました。



## いつまで？

始まりと終わりがわかって行動できるようになってきたら、子供達が表すサインとして①鐘がなって教室に自分で戻って着席したけどまだ休み時間したいなイライラ……。②勉強時間は分かるけどいつまでなんだろうイライラ、はやく給食行きたいのいつ鐘が鳴るんだろうイライラ。見た目は頑張ってるけどいい行動をとってないもの frustrations が溜まっているなという印象を受けました。そこでタイムエイドの出番です。タイムログの20分計は一つのランプが一分なので時間の減りが分かりやすいです。終了するとアラームが鳴るのも目と耳で理解できるのでグッド！！です。「ピー鳴ったら休み時間（給食）！」という納得してイライラしないで授業を受けたり、〇〇までの待ち時間を過ごしたりすることができるようになりました。①に関しては休み時間の長さ（5、10分間）を自分で押し「ピー鳴ったら休み時間おしまいね！」という使い方でクリアしました。自分で押したので納得できるという効果もあるようです。

もっとできる人は時間内で課題を終了することにも挑戦しました。

時間内でできる課題を増やそう！		自分で時間をセットします。	待っててね！
 <p>連絡帳を10分で書きます。ランプが消えていく様子を意識しながら時間内で書き終えることができました。</p>	 <p>刺し子の課題です。ボタンを2つ（赤、緑）組み合わせて30分集中して取り組みました。</p>	 <p>給食を1時までに食べ終わります。時計も併用して残り時間を意識します。</p>	 <p>校外学習で予定外の待ち時間ができました。「ピー鳴ったらレストラン！」で落ち着いて待てました。</p>

## 最後に

子供達が何に困り、戸惑っているのだろうと日々関わりながら考えることでたくさんのヒントを得、指導の手掛かりとなります。そして教材への工夫につながります。ここで紹介したものは実践のほんの一例ですが、何かのお役に立てばと思っています。

（本事例は特別支援学校教諭 栗林睦美先生からご提供いただきました。）